

vol.54-04 (通算 613号)

2024年7月号

# やどかり

2024年7月15日発行  
(毎月1回15日発行)1987年12月19日第三種郵便物認可  
発行人 公益社団法人やどかりの里  
代表者 増田 一世

〒337-0043 さいたま市見沼区中川 562

TEL 048 - 668 - 0494

FAX 048 - 747 - 7030

URL <https://www.yadokarinosato.org/>

定価 50円 (含会費)

## やどかりの里 2024年度定期総会報告 55周年に向けた新たな挑戦と今後の展望

2024年6月15日(土)、公益社団法人やどかりの里の定期総会が開催された。総会後にはトイピアノの演奏家、畑奉枝さんをお招きし、「統合失調症の兄とトイピアノ」と題して演奏とお話を楽しみ、交流を深めた。

開会にあたり、増田一世代表理事から2023年度の社会の動きや取り組みについて報告があった。障害者権利条約総括所見に照らし、宇都宮病院事件から40年経っても滝山病院事件など変わらない人権侵害がある現状を説明。精神医療改革がやどかりの里の使命であると強調された。また、障害者総合支援法の強まる成果主義や不安定な運営状況の中で、当事者のニーズを中心に据える重要性、優生保護法や生活保護法の違憲訴訟運動について、私たち1人1人の問題として人権意識を根付かせることの大切さが共有された。

法人会員は274人。総会の審議内容は、2023年度の事業報告と決算報告、理事・監事の改選であり、いずれの議案も承認された。

事業報告は「所報やどかり」に基づいて行われた。2023年度、やどかりの里の登録者は271人に減少(2019年度は361人)、精神科病院から退院して新たに利用する人はいなかった。障害者総合支援法の規制緩和により、営利企業等の事業参入で地域に社会資源が増え、やどかりの里以外の選択肢も増えた。やどかりの里が大切にしている価値をまだ知らない人たちにどう発信していくか、新たに広報委員会を立ち上げ、議論を重ねたうえで情報発信をしていく予定である。また、市内全域でグループホームが増加し、精神科病院か

らグループホームに退院する人が増えている一方、虐待等の権利侵害が多発している。さらに、常勤換算方式による職員の非正規化とそれに伴う専門性の低下、十分なアセスメントなく受け入れたことによる対応の困難さから退去を余儀なくされるなど、問題が山積している。単に暮らしを病院からグループホームに移すだけでなく、地域移行支援の重要性を確認する時間となった。

やどかりの里では、活動の方向性を描き出すために節目ごとに調査活動を行ってきた。創立30周年に取り組んだメンバー、職員の状態調査からは、5つの課題が導き出された。本総会でも、会員から「働き場所を広げていく課題」と「財政基盤を拡充していく課題」の重要性が強調された。やどかりの里が現在直面する重要な課題である。

また、地域住民と進めている「未来を拓くつなぐつくるプロジェクト」は、エシカルカフェ「としょかんのとなり」をオープンし、1周年を迎えた。「人と人」「人と自然」「人と地域社会」をつなぐ地域の拠点として、会員から期待のメールが送られた。

創立55周年を迎えるにあたり、やどかりの里は新たな挑戦を始めている。来年度に向けてメンバー、家族、職員の状態調査を行い、その結果から見えてくる実態や課題、ニーズを基に、新たな方向性を見出していく。社会情勢やニーズの変化に対応しながら、やどかりの里の活動も進化させていくことで、より多くの人たちが充実した生活を送れるように取り組んでいく。(鈴木 裕貴)